

主催



国際交流基金
日中交流センター

R LEAD ASIA 2018

～アジア人材育成プログラム～



共に、挑む。

日中学生交流連盟
Japan China Student Frontier Group



JAPAN FOUNDATION

国際交流基金
日中交流センター

この報告書の著作権は日中学生交流連盟、及び国際交流基金日中交流センターに帰属します。内容の全部または一部を複製し利用することを禁じます。

2019年3月発行

協力

株式会社 JTB グローバルマーケティング & トラベル、株式会社 ホトロン、株式会社 三菱 UFJ 銀行、外務省、全日本空輸株式会社、日本電気株式会社、日本放送協会、藤田観光株式会社

目次 CONTENTS

03	1	事業内容	02
	2	活動の内容	
06-07	2-1	活動ダイジェスト	03-05
	2-2	企業訪問の様子	
09	2-3	企業アンケート結果	08
	2-4	講演の様子	
10-16	3	活動を終えて	10
	3-1	参加者の声	
18	3-2	参加者アンケート結果	17
	4	協力企業、機関一覧	
22-24	5	主催団体紹介	19-21
	6	学生実行委員紹介	
	7	ご協力・ご協賛のお願い	25

日中学生交流連盟
リードアジア実行委員会 実行委員長
栗田 寛樹 (くりた ひろき)



日中学生交流連盟リードアジア実行委員会が企画運営するこのリードアジアプログラムも、今年で6年目を迎えることとなりました。日中友好条約40周年の節目の今年、過去最高規模の人数・参加者満足度で本プログラムを終えることができましたのは、ひとえにご協力くださいました企業や団体、外務省をはじめとする関係者の皆様のおかげであります。ここにあらためて厚くお礼申し上げます。

本プログラムは、日本と中国約50余名の学生が代々木のオリンピックセンターで8泊9日間寝食を共にし、その間に企業訪問や文化交流等の多面的なアプローチから国境を超えた相互理解を実現することを目的に2013年に企画されました。

これまでも毎年非常に高い満足度を頂いておりましたが、今年は、これまでの先輩が実行されてきたプログラムをただ受け継ぐのではなく、自分たちで一から作り上げようという意気込みのもと実行委員が一丸となって励んでまいりました。その結果、準備段階においては大規模なクラウドファンディング、プログラム本番においては討論形式で本音をぶつけ合う勉強会や実行委員によるディスカッション講座、スポーツを織り込んだオリエンテーリングといったいくつかの新たな取り組みに果敢に挑戦することができました。

リードアジア2018プログラム参加学生の皆が、本年度のコンセプトである「心をつなぐ、日中をつなぐ、未来へつなぐ」を体現すべく、今回の学びを糧にしてアジア、そして世界で活躍するリーダーになることを願うと共に、これからも学生による交流プログラムを通じて、学生間の交流の輪が一層拡大していくことを切に願っています。

国際交流基金日中交流センター所長
堀俊雄 (ほり としお)



国際交流基金日中交流センターは2006年の設立以来、一貫して日中の青少年交流の活動運営・支援を行ってきました。日中学生交流連盟との共催である「リードアジア」プログラムへの支援もそのひとつです。

2013年に開始した本事業は今年で6年目に入りました。「リードアジア」に集った日中の大学生たちは、延べ300名近くを数え、初期の参加者はすでに社会人となり、様々な業界で活躍しています。

今年の「リードアジア」プログラムでは、参加人数は54名(日本人学生22名、中国本土から来日した中国人学生12名、日本で留学中の中国人学生10名、学生スタッフ10名)にのびりました。中国各地での「ふれあいの場」の運営に携わる学生も参加してくれ、交流の輪が広がった感があります。「日中平和友好条約」締結40周年の節目でもある今年、無事6周年を終えることができましたのは、ひとえにこのプログラムにご協力いただきました企業や団体、外務省をはじめとする関係者の皆様のおかげであります。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。

本事業に参加した学生たちは、8泊9日の合宿形式の日程で代々木のオリンピックセンターで寝食を共にしながら、本事業実現に至るまでのさまざまな困難を克服し、企業訪問やディスカッション、勉強会等を実践してきました。今年のプログラムでは企業10社と外務省への訪問・協力が実現しました。参加者たちは企業訪問等を通じて、活発な議論をぶつけ合う中で、国境や価値観の違いを超えて相互理解を深め、新たな視野を開くことができたものと確信しています。

参加した学生が将来、日中両国をはじめ、本事業タイトルのとおり「アジアをリード」する人材に、ひいては世界で活躍する人材に育ってほしいと願うと共に、これからも日中両国の多くの賛同を得て、本事業の活動の輪が広がっていくことを願っています。

1. 事業内容

【夏季プログラム】

実施日程：2018年8月18日～26日
開催地：東京
共催：日中学生交流連盟
国際交流基金日中交流センター
参加人数：44人
日本人学生：22人
在日中国人留学生：10人
中国本土学生：12人

【訪問企業・省庁】（50音順）

株式会社 JTB グローバルマーケティング & トラベル、株式会社ホトロン、株式会社三菱 UFJ 銀行、外務省、全日本空輸株式会社、日本電気株式会社、日本放送協会、藤田観光株式会社

【講演会】

8月21日（火）
林 香織様（株式会社マイナビ）
8月22日（水）
秋山 真治郎様（アビームコンサルティング株式会社）
8月23日（木）
鈴木 孝幸様（特定非営利活動法人国際社会貢献センター）

【参加大学一覧】（50音順）

<日本人>
秋田県立大学、関西学院大学、群馬大学、慶應義塾大学、滋賀大学、上智大学、清泉女子大学、創価大学、東京外国語大学、同志社大学、南山大学、新潟県立大学、北海道大学、立命館大学、早稲田大学
<留学生>
岡山大学、千葉大学（電子科技大学）、東京大学、長崎外国語大学、一橋大学、早稲田大学
<本土学生>
江西師範大学、山東大学、上海財経大学、上海海事大学、中山大學、中原工学院、青島理工大学、天津外国語大学、北京理工大学

【コンセプト】

CONCEPT “心をつなぐ、日中をつなぐ、未来へつなぐ”

本プログラムの最大の目的は「これまで日中交流に馴染みのなかった学生に日中交流の楽しさ・意義を感じてもらう」ことです。本プログラムは、『日中交流』と『企業訪問』の2つのキーワードで構成されている点が、他の日中学生交流プログラムと大きく異なる特色です。多くの学生が興味・関心を抱いている「ビジネス」の要素をプログラムに取り入れることで、従来の日中学生交流プログラムではアプローチできなかった層に対して、日中交流への興味を引き出すことを図っています。企業訪問だけでなく、日中の学生が寝食を共にするなどの共同体験を経ることで、多面的な日中両国の相互理解を目指しています。

2. 活動の内容

2-1. 活動ダイジェスト



1日目・8月18日

集合・開会式

快晴のなか、日本人学生22名、中国人学生22名、計44名が日本と中国の全国各地からオリンピックセンターに集合し、「リードアジア2018」がスタートしました。期待と不安が入り混じる中、アイスブレイクでは自己紹介ゲームとビンゴを行い、参加者それぞれがお互いに質問しあうことで、緊張感がほぐれていきました。夕食後には、ようやく中国本土学生が到着し、総勢44名揃ったところでオリエンテーションと開会式を行いました。ここでは、プログラム全体の流れや、日中学生交流連盟の説明、日中交流センターの方からのご挨拶と、そしてこれまでの実行委員長3名に、プログラムにかける思いを伺いました。また、参加者1人1人の自己紹介タイムでは、各々の個性の強さに、いらつやあったこれまでのOB、OGの方も驚くほどでした。



2日目・8月19日

オリエンテーリング・料理大会

プログラム2日目には、より親睦を深める文化交流を行いました。まず、はじめに、オリエンテーリングでは、オリンピックセンター全体を利用し、チーム対抗で様々なミッションに答えて、全てのミッションを終えた後の点数順で、料理大会で自分たちの作りたい料理を決めていきました。「面白い写真を1枚撮れ」というミッションでは、各チームそれぞれの個性が見られ、仲を深めている様子が感じられました。料理大会では、各チームで日本料理と中華料理のそれぞれを作りました。日本人と中国人、それぞれお互いに知らない料理を初めて作ることもあり、お互いの文化の違いに触れる機会となりました。

3日目・8月20日

企業訪問・日中歴史勉強会

3日目からいよいよ企業訪問が始まりました。まず、午前中には、全員で霞が関の外務省を訪問させて頂きました。リードアジアとして外務省を訪問するのは今回で2回目となり、政府の視点から日中関係について講演を頂き、今回初めての訪問にも関わらず、質問に数多くの手が上がり熱心に日中両国の関係について考える学生たちの様子が見られました。午後には、株式会社三菱UFJ銀行を訪問し、「キャッシュレス」をテーマにディスカッションを行いました。夜には、日中歴史勉強会を行い、「日中の歴史に対して自分で意見を持てるようになる」ことを目的に日中関係に関する歴史をおさらいし、ディスカッションを行いました。東日本大震災での中国の支援など、学生が知らなかった歴史も多く、日中の歴史について意見を交わし合う貴重な機会とすることが出来ました。



5日目・8月22日

企業訪問・日中本音大会

企業訪問3日目には、午前中にオリンピックセンターにてアビームコンサルティング株式会社の秋山様にワークショップを行っていただきました。午後は3社に分かれて日本電気株式会社、日本放送協会、藤田観光株式会社に企業訪問をしました。夜は日中本音大会を行いました。政治・文化・社会の3つのテーマの中から最も興味のある分野について本音を語り合いました。初めて聞く事実もありとても盛り上がりました。

4日目・8月21日

企業訪問・前半反省会

企業訪問2日目には、午前は2社に分かれて株式会社JTBマーケティング&トラベルへ訪問、オリンピックセンターで株式会社マイナビに講演を頂きました。午後にも2つに分かれて株式会社ホトロンへの訪問、オリンピックセンターでの6色ハットディスカッションのワークショップを行いました。前半反省会では参加者1人ずつ、これまでの反省と今後の意気込みを発表しました。また、8月生まれメンバーにバースデーサプライズを行い、非常に盛り上がりました。



6日目・8月23日

企業訪問・最終発表会準備

午前中にはオリンピックセンターにて特定非営利活動法人国際社会貢献センターの講演会でした。午後は全日本空輸株式会社へ訪問しました。夜は各グループに分かれ、最終発表会の準備を行いました。今年度は、「訪問した企業へ10年後の人々のニーズに合わせたビジネスの提案」のテーマのもと準備が進められました。ほとんどのグループが寝る間も惜しんで発表の準備を行っていました。グループ全員で「これまでの全ての学びを活かした発表にしたい!!」との真剣な思いで取り組んでいる姿がとても印象的でした。

7日目・8月24日

最終発表会・懇親会

全グループの最終発表の準備が整い、午後よりオリンピックセンターにて選考会を行いました。投票によって高得点を獲得した上位3チームが、本会場で成果発表を行う機会を得ることが出来ます。10年後の人々のニーズに合わせたビジネスの提案として、学生らしい視点と、新しいアイデアが光る成果発表会となりました。発表会及び、懇親会には今年も多くの方にご参加頂きました。リードアジアは受け入れをして頂いた企業関係者様、学生団体の皆様、OBOGの皆様のご支援ご協力があつてのプログラムだということをもつて実感しました。学生として、社会人の皆様とこの様に交流させて頂ける貴重な機会に感謝の思いで胸がいっぱいになりました。



8日目・8月25日

都内観光・打ち上げ

プログラムも終盤となり、この日はグループに分かれて都内散策を行いました。出発前に行先を決める際、「本土学生が帰国前にたくさんの思い出を作れるように!」という日本側学生のアイデアや配慮にとっても感動しました。たくさんの思い出と写真が残る観光となりました。観光後は、渋谷のカフェで打ち上げを行いました。この8日間での思い出話は尽きることなく、あつという間に時間が過ぎていきました。打ち上げ終盤で実行委員会が作成していたムービーを上映すると、中には涙を流すメンバーも。最後には、参加学生から実行委員会への真心のこもったビデオメッセージサプライズプレゼントもあり、涙あり笑いありの打ち上げとなりました。



9日目・8月26日

閉会式・帰国

午前中の閉会式をもって、リードアジア2018プログラムが正式に閉幕しました。長いようであつという間の8泊9日間。しかし、この期間で日中の両学生が心から感じ取ったものはとても大きく、そして深いものであつたと思います。そして、本プログラムをもって終わりではなく、むしろ始まりとして、これからの日中の未来に続いていくものだと信じています。本土学生の見送りの際、涙しながら「また絶対会おうね!」「これからも一生日中友好に関わっていきます!」と決意する姿や、別れを惜しむ姿にこれからの日中の未来を約束しているかのような強い絆を感じました。



2-2. 企業訪問の様子

外務省

8月20日(月)・AM

～歴史を学び、これからの日中関係について～

昨年に引き続き訪問させていただいた外務省では、政府の視点から日中関係を見ていく、また日中の歴史について考える機会をいただきました。霞ヶ関駅に着いた私たちは、ゲートをくぐり大きなホールにたどり着きました。参加学生の皆さんは、入省する時点での厳重な警備にも驚いている様子でした。訪問では、外務省での対中事業やその役割に関するご講演を受けました。質疑応答の際には、日中間わず多くの学生から手が挙がり、外務省の方も驚かれるほどでした。学生たちが熱心に聞き入れ、真剣に日中関係について考える姿がとても印象的でした。

株式会社三菱 UFJ 銀行

8月20日(月)・PM

～邦銀の視点から両国の金融状況を理解する～

日本のメガバンクの1つである、例年大変お世話になっている三菱 UFJ 銀行に今年も訪問させていただきました。訪問の最初には、学生みんなで日本の金融、メガバンクの業務及び三菱 UFJ 銀行の中国での歴史や動向について学びました。さらに、両国のデジタル化についても話しました。続いて、学生たちは「電子マネーの変化の中銀行ができること」というテーマでグループディスカッションに取り組みました。電子マネーにおける近年の動向、両国の実際状況、銀行の機能などを含めてディスカッションしました。少し難しいテーマですが、短い間で質の高い案がたくさん提案されました。最後に社員と交流する時間で、学生たちは積極的に質問を聞いて、非常に有意義な訪問となったことでしょう。

株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル

8月21日(火)・AM

～日本のインバウンド事情とツアー企画体験～

JTB グローバルマーケティング&トラベル (JTBGMT) は JTB グループの訪日インバウンド機能特化型会社として、JTB105年のDNAとミッションを受け継ぎ、今日まで世界の国々からの数多くのお客様に日本の魅力を紹介する会社です。日本の外国人誘致(インバウンド)ビジネスの歴史は、そのまま JTBGMT が歩んだ歴史でもあります。企業訪問の内容としては、冒頭に社員の方による日本のインバウンド歴史と現状についての講演をいただき、インバウンドが日本経済の成長に大きく寄与する事から感銘を受けました。その後、社員の方々が実際に働く現場を見学し、現場の雰囲気を感じました。最後、13名の日本人参加者と11名の中国人参加者が、それぞれ2つの班に分け、訪日する側と訪日を受け入れる側それぞれの視点からディスカッションし、自分達にとって最も魅力的なツアーの商品企画に取り組みました。

株式会社ホトロン

8月21日(火)・PM

～センサーから感じる日本の技術～

町田の本田電子技研へ訪問させていただきました。製品紹介では参加者は説明を聞きながら製品の展示に見入っておりました。ホトロンの代名詞ともいえるセンサーを扱った製品の実物を見て、製品を改めて身近に感じました。次に会社の説明を受けました。ホトロンの事業や海外進出について、また、センサーの仕組みについてレクチャーを受け、参加者は皆興味津々でした。普段あまり気かけないセンサーがどのような仕組みで働くかを知ることは、それも新鮮で新しいものに映ったようです。すべてのイベントを終えてからは懇親会を用意してくださり、日本人や中国人に関係なく、参加者の皆さんと社員の方が和気藹々と会話を交わりました。今年は中国人従業員の方も参加していただきました。親密な社内の雰囲気が伝わって来る企業訪問となりました。

日本電気株式会社 (NEC)

8月22日(水)・PM

～未来の社会へ繋ぐイノベーションを創出する～

NEC では、3年連続で訪問させて頂いており、本社のロケットタワー 43階にある共創型ワークショップスペースにご案内頂きました。43階から見える壮観な景色に、学生たちは感動し、写真撮影会も行われました。訪問では、社員の方の軽妙なトークによる会社紹介の後、「イノベーションの起こし方」というテーマでお話を頂きました。後半には事前に出されていた課題を踏まえ、グループに分かれ、教わった考え方を活かしながら、生活を便利にする製品・サービス開発のアイデアを出しました。各グループの考案したアイデアはよく練られており、発表では社員の方からの厳しいフィードバックを熱心に聞き入れ、考えこむ姿に学生たちの成長が感じられました。ワークショップの後には懇親会を開いていただきました。社員の方々とも自由に交流することができ、参加学生にとって大変貴重な時間となりました。

日本放送協会 (NHK ワールド)

8月22日(水)・PM

～「事実」と「真実」の違い、そして「伝える」難しさ～

NHK ワールドは独自のニュースや「海外安全情報」で安全と安心を支える情報を発信する国際放送局です。今年の訪問では、国際放送局並びに中国語センターに関する業務説明のほか、中国現地取材に経験を持つ社員による現場でしか感じられない貴重なお話を伺うこともできました。今年は特別にディスカッションの場を設けて頂き、日本人と中国人チームに分けて、それぞれが相手に自国の魅力を伝えるためにはどうすれば良いのかという点について議論をしました。そのなかで、相手の立場を考慮して、物事を「伝える」ことの難しさを知りました。また、実際に番組の収録が行われているスタジオの見学を通して、日頃のニュースが製作されている現場を目の当たりにすることができました。そして、リスナー番組「波長情短」のゲストとして、ラジオ番組の収録に参加するなど、大変貴重で充実した訪問となりました。

藤田観光株式会社

8月22日(水)・PM

～ホテル椿山荘からみる日本のおもてなし～

藤田観光には今年で4度目の訪問になります。目白にある高級ホテル椿山荘東京を見学させて頂きました。結婚式場の綺麗なチャペルや最近完成したばかりの和婚神殿、ホテルのスイートルームなどを案内して頂いたほか、客室と豪華な庭園に隠された細かな工夫を教えてくださいました。ホテル椿山荘がお客様に長く愛される秘訣である日本最高クラスのおもてなしを肌で感じる事は学生にとって日本文化や日本らしさを実感する貴重な経験になったと思います。また、後半は「中国人のお客様をどのようにおもてなしするのか」をテーマにディスカッションをし、おもてなしを体験したうえで新しいホテルの提案企画をしました。藤田観光の方からは多くのフィードバックを頂くことができ、大変充実した訪問となりました。

全日本空輸株式会社 (ANA)

8月23日(木)・PM

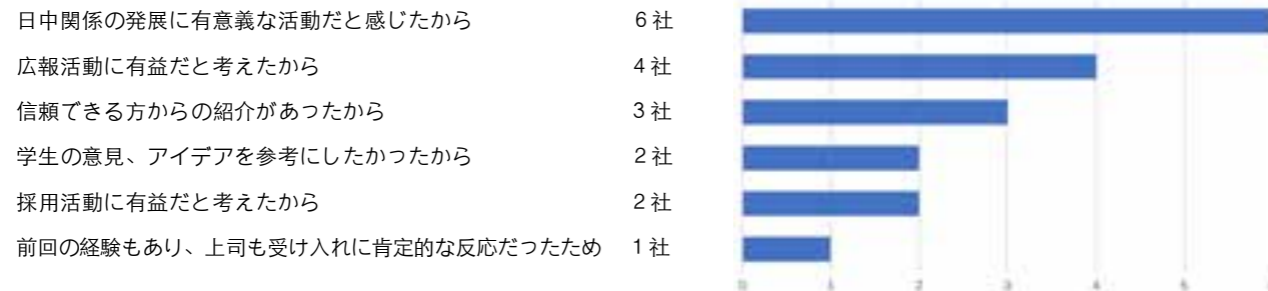
～安心と信頼を基礎に世界を繋ぐ心の翼で夢にあふれる世界を目指して～

今年は訓練センターにてモックアップの見学と航空業界及び全日空に関する様々な質問に対して解説していただきました。前半は機内の客席、食事や飲み物が保管されているギャレーなど、機内を再現したモックアップの見学をさせていただきました。さらに緊急時の対応として避難訓練の体験もさせていただきました。客室乗務員の方がお客様に対して行うサービスだけでなく、自分が乗り合わせた飛行機に万が一のことがあった時の対応など様々な立場から必要とされる知識を学びました。後半は機内食を始めとする機内サービス、安全を守る整備方法、運航管理についてなど参加者からの質問に対して回答・解説を頂きました。3時間という短い期間でしたが、大変有意義な時間を過ごせました。



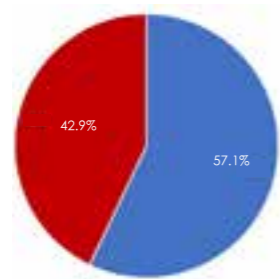
2-3. 企業アンケート結果

今回訪問受け入れを決定した理由（複数選択可）：



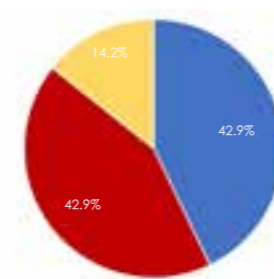
参加学生のレベル：

- 非常に高い 4社
- 高い 3社
- 普通 0社
- やや低い 0社
- 低い 0社



受け入れを終えての満足度：

- 5点（非常に高い） 3社
- 4点（高い） 3社
- 3点（普通） 1社
- 2点（やや低い） 0社
- 1点（低い） 0社
- 0点（非常に低い） 0社



企業様コメント抜粋：

- ・学生の自由なアイデア、感性に刺激を受けた有意義な交流でした。
- ・毎年感じる事ですが、日中の優秀な学生の皆様の活発なるディスカッション、素晴らしい発表、奇想天外の発表に我々自体も忘れかけていた前向きな姿勢を感じた。来年もまた活発なディスカッションを聞かせていただきたい。
- ・日中の将来を担う若い世代の交流の重要性を改めて痛感いたしました。日中学生の考え方・相互理解を深めるのに大変役に立つプログラムと思います。
- ・質問も活発で、また最後の発表は皆さんの創意工夫が見られ、とても頼もしく感じました。この貴重な機会を続けること、また皆様から貴重な、率直な意見をうかがえる場として本事業が継続されることを祈っています。

2-4. 講演の様子

8月21日（火）AM

林 香織様
株式会社マイナビ

人材広告大手株式会社マイナビの林香織様は8月21日の午前で就職活動に関して講演を行いました。就職と人材事業のプロである林様は、日本での就職活動の基礎、スケジュールなどについてお話をしました。特に、外国人学生を対象にして、現在日本での就職活動の現状と留学生としての注意事項も話しました。最後のQ&Aセッションで、将来のキャリアに不安な学生とも有意義な議論を行いました。

8月22日（水）AM

秋山 真治郎様
アビームコンサルティング株式会社

プログラム5日目のこの日はアビームコンサルティング株式会社の秋山真治郎様のご講演でした。前半はコンサルタントとしての働き方や考え方、また企業についてご紹介頂き、後半は実際のコンサルティングの考えをもとに実践的なケースワークを行いました。ケースワークのテーマは「LINE社がLINE Payでモバイル決済シェア1位を獲得する策を考える」というもので、電子決済普及のノウハウがある中国のメンバーと日本の実情を知る日本のメンバーが協力して、最善の解決策を提示できるよう議論を深めました。最後は秋山様から優しくも厳しいフィードバックを頂き、問題解決の難しさを痛感するとともに、実際にコンサルタントとしてチームで力を合わせて働くイメージを大変身近に感じられるようになりました。

8月23日（木）AM

鈴木 孝幸様
特定非営利活動法人国際社会貢献センター

伊藤忠商事に勤めていた鈴木孝幸様に総合商社のビジネスに関してご講演して頂きました。日本独特である総合商社のビジネスモデルや各事業について詳しく解説をして頂き、鈴木様ご自身が働かれていた際のエピソードなども聴かせていただくなど総合商社で働くことのイメージがとても湧きやすい講演でした。また、伊藤忠商事の三方よしという経営哲学も教えて頂き、その後の最終発表会のビジネス提案の発想に大きく貢献していました。このように日中や世界に目を向けているリードアジア参加者にとって世界にまたがるビジネスをしている総合商社についてのお話はとても有意義なものであったと思います。

3. 活動を終えて

3-1. 参加者の声



高橋佑太 早稲田大学 法学部 3年

学ぶ事がとても多かったです。実行委員の努力もあり、学ぶだけでなく、楽しむという面でも非常に満足できました。日中交流×企業訪問がどう繋がるのか最初は疑問でしたが、日中関係に注目している企業が増え、驚くほど上手く合わさりました。実際にいくつかの企業では、つい最近中国部署が出来たばかりだったらしいです。この先どんどん中国は発展していくし、隣国である日本はその存在と関わって行かざるを得ません。ビジネスと絡めて日中交流をすることは極めて有意義でした。もっともっと広がっていいし、ますます注目されていくと思います。



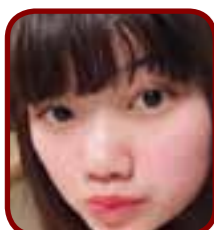
村上春菜 早稲田大学 国際教養学部 3年

リードアジア思っていた以上に、学びあり、しんどさあり、楽しさあり、発見ありのプログラムだった。リードアジアに就活を控えるベストタイミングで参加をできたと思うし、自分がやってきた日中交流の集大成になったと思う。私が日中交流を始めた理由は中国に対する正しい認識を得るということだったが、留学や活動などを含め、もちろん全てではないが、中国に対する正しい知識は持っている人間になれたと思う。だからこそ次の目標を定めようと思った。リードアジアで出会った人とはこれからも繋がっていきたいと思った。実行委員には本当に感謝している。



巻本亜樹 群馬大学 理工学部 生物化学科 1年

とても充実した9日間でした。日中の状況、歴史、話し合いなどを通して色々学ぶことができ、自分の不勉強さ、未熟さを感じました。直接会って話さなければ分からないことが沢山あると思います。企業訪問では、ディスカッションのノウハウや、企業の視点など、考え方が変わる体験をさせて貰いました。又、自分の反省が沢山見つかってこれから直すとともに、みんなとの交流も続いていけたらと思います。本当に楽しい時間でした。ありがとうございました。



永瀬凌子 関西学院大学 法学部 政治学科 1年

リードアジアがおわって本当にその実感がありません。自分は周りの仲間ができたことに加え、周りからの新たな刺激、さらにディスカッションの方法、あらゆるマナー、学んだことを上げていけばほんとうにきりがありません。まだまだ私それが消化出来ていなくて、整理できていません。今後、中国と関わっていきたいという思いも新たに生まれたことは確かです。しかし、それに限らずそれはどの分野でも共通していることだと思います。たとえばその地域がヨーロッパ圏でもアフリカ圏でも、ひとに先入観をもつことなく、その目の前の人を尊重する、個々に個性があり、一人として同じ人はいません。それはどこにでも共通していることです。わたしは、これからここで学んだことを必ず活かして、まだまだ交流を深めていくとともに、自分が興味を持ったことはとりあえずあしをふみだす！ことを恐れずにすすんでいきたいです。



佐藤静奈 新潟県立大学 国際地域学部 国際地域学科 2年

本当にこのリードアジアに参加出来てよかったです。みんなバックグラウンドは違えどすごい人ばかりで、毎日刺激をもらったので、来る前と比べてワンステップもツーステップも上の段階に成長出来たと思います。と同時に、自分がどれほど未熟か痛感しました。この悔しさを糧に、周りの人に追いつけるようにももっと視野を広げ、勉強も頑張っていきたいです。人生を変えるような素晴らしい経験をさせていただいて本当にありがとうございました。



疋田黎奈 創価大学 経済学部 経済学科 2年

リードアジアへの参加を通じて、期待以上の成果が得られたと思います。日中交流×企業訪問ということで、もともと興味があった内容でしたが、実際に参加してみて得られたものは多かったです。企業訪問では、ディスカッションの際に論理的思考力や創造力が必要とされ、もっと磨いていかなければならない部分に気づくことができました。また、日中交流の部分では、中国の学生と文化や経済のことなど多岐にわたる話をする事ができ、考え方の違いを感じると共に、日中友好という面では同じだと感じられました。このプログラム内で終わらず、これからも日中友好のために動いていきたいです。



小田垣 剛 秋田県立大学 生物資源科学部 生物環境科学科 1年

まず、一年生からこのようなプログラムに参加でき、大変勉強になりました。ディスカッションでは、他の人からさまざまな意見を聞くことにより、相手の気持ちがわかり、新たな視点を発見できました。発表の際は、皆さんの発表の仕方を見ることで、参考になる点が多かったです。また、自分自身は、緊張してしまい、原稿を見なければいけないようなことが多々ありました。今後は、自信を持って、頑張ろうと思いました。最後に、中国人学生と交流することで、日本とは違う点をいくつか知ることができました。また、自身のネットワークも広げることができ、今度も交流していこうと思っています。



高垣真実 立命館大学 文学部 東アジア学域 3年

中国について他の参加者より知らないことが多かったが、その分、多くのことを吸収できたと思う。



金子明日香 関西学院大学 法学部 法律学科 3年

このプログラムの、そして毎日の、最初から最後まで、ぎっしりプログラムが詰まっていた、本当に充実していました。アジアに精通し、アジアをリードしていくことができる人になりたい!!と思わせてくれ、ステキな仲間を作らせて下さったことに本当に感謝しています!



秋山レナ 滋賀大学経済学部 社会システム学科 2年

参加動機は、2年生の間に多種多様な企業のインターンを経験したい、地元から離れ日中問わずたくさんの学生と出会いたい、というものでした。そんな気持ちで参加した9日間を終え、当初の目的を果たすことができた満足感とともに、新たな自分を発見できたことへの喜びを感じています。人前で話す機会がたくさんあり、自身が成長できたことはもちろん、他人から学ぶことが本当に多くありました。充実した濃厚な経験をこれからは活かすため、まだまだ成長しなければとエネルギーをもらう最高の9日間でした。



小西真愛 同志社大学 グローバルコミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科 中国語専攻 3年

この8泊9日間の活動は、私にとって貴重な経験となりました。私は、他の参加者のように、大勢の前で発表することも苦手で、フリエイティブな発想もないが、1つだけ恵まれていることがあって、それは人との縁です。このプログラム中もよく、参加者の友達が自分の友達だったことが何回もありました。前の縁があったからこそ、今の縁に繋がっていると思います。だからこそ、今の縁をこれからも大切にしていきたいです。本当に自分を大きく成長させてくれた、リードアジアの全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。



大井 暁 上智大学 理工学部 機能創造理工学科 4年

人生の中で最も密度の濃い8泊9日間でした。私生活の中でこんなにも自分の頭で考えて、仲間と協力して何か1つのものを作り出していくということがなかったので非日常を肌で感じる事ができました。また、普段は中国人と交流する機会がなかなかないので、実際に中国人と関わることができて本当に良かったです。中国に対するイメージが何倍も良くなりました。この経験をただの感想で終わらせることなく、しっかりと還元出来るように努めたいと思います。



中村 菜里 清泉女子大学 文学部 英語英文学科 2年

自分で勇気を出してこのプログラムに応募して本当に良かったと思います。何も知らない状態からのスタートで、不安なこともたくさんありましたが、そんなことを感じさせないくらい毎日が充実していて最高の9日間でした。とにかく今は自分の目で中国を見てみたい気持ちでいっぱいです! みんな、ありがとう!



藤井里華 南山大学 人文学部 日本文化学科 3年

私は、自分を変えるきっかけとなったこのプログラムに参加して心から良かったと思います。日本と中国の学生が共に生活をする中で、それまで何となく持っていた中国に対する先入観を無くすことができました。また、国籍や大学での専攻、学年が違うメンバーとの話し合いでは、お互いを尊重しながらグループとしてひとつの答えを出すことの難しさや、面白さを知ることができました。数々のグループワークを通して自分に足りないものを探し、改善を試みることで成長ができました。リードアジアの8泊9日間の中で、一生の仲間に出会うことができた非常に有意義なプログラムでした。



鈴木雄一朗 立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 スポーツ社会専攻 4年

本当にとても濃い9日間でした。自分は、中国のことについて全然知らなかったけど、9日間寝食を共にし、グループディスカッションや他愛もない話や、お互いの国のことについて深く話すことができ本当に良かったです。



三井明 北海道大学 工学部 機械知能工学科 3年

今回のプログラムを通じて国境を超えて行われる仕事の難しさと楽しさをイメージできました。リードアジアではディスカッションだけにとどまらず、文化交流なども広く用意されていて、アジアで関わりを持っていく上で、他では決して味わえない貴重な経験をできました。今回の交流は自分の今後の財産となり、必ず生きてくるものだと思います。本当にあっという間でしたが、とても楽しかったです。



家原航 同志社大学 グローバル地域文化学部 アジア・太平洋コース 3年

リードアジアは自分にとって、とても成長できた今までにない充実感を得られた8泊9日でした。企業訪問では、これからのキャリアを考える貴重なお話や施設見学、GDなど多くの気づきと発見がありました。そして、何より日中學生との意見交換・交流を通じてお互いの文化や価値観を共有できた事がとても嬉しく思っています。リードアジア参加者は、日本人でも出身や学問分野が違い、中国人学生も留学生と本土学生がいたり、バックグラウンドが様々で、毎日が新鮮で刺激的な日々でした。一生の思い出と最高の仲間に出会えたことに感謝しています。



三浦愛菜 東京外国語大学 国際社会学部 東アジア地域中国語専攻 3年

この9日間はとても忙しく、楽しく、毎日が充実していました。企業訪問を通じて様々な業界を知り、将来について考え、視野を広げることができたのはもちろんですが、最も刺激を受け、学ぶことができたのはプログラム参加者との交流からです。実行委員を含め、参加者は皆優秀で、一人一人個性があり、皆との交流を通して自分の欠点に気づかされる事が多々ありました。特に自分と同世代の仲間の頑張りを見ることで多くの刺激を受けました。この多忙な9日間で最高の仲間と共に駆け抜けることができ、自他共に成長できたことはかけがえのない思い出となりました。



今西宏文 慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科 3年

初めに、リードアジア2018に協力して下さった企業の皆様、基金の皆様、そして準備期間から期間中の運営までギリギリの体力の中でもまとめあげてくれた実行委員の皆に感謝申し上げます。そして、リードアジア2018に参加出来たことをとても嬉しく思います。8泊9日という短い期間で、まさか最後の別れ際涙が止まらなくなるような関係になるとは思いませんでした。それはきっと、毎日の密なスケジュールと多くの交流の機会によるものだと感じます。そういう意味で、今回のプログラムの趣旨は叶っていると思います。日中問わず素晴らしい人たちに出会い、毎日話し合い意見を交換し、共に苦しいことも乗り越えたこの経験は僕の財産になります。悲しくても、終わってしまうからこそ、僕たちは今後を見てまた新しい行動へと続いていこうと思います。



山際東悟 上智大学 理工学部 機能創造理工学科 4年

この9日間は自分の人生の中で1番早く過ぎてしまったと体感しています。全員と初めて会ったときから終わって家に帰るまで、国に対する考えだとか将来について考えるいい期間でした。実行委員をはじめ、参加者達が本気になって努力する姿は自分のモチベーションを保ってくれた、かつ今後大事にしたい関係だと感じさせてくれました。大変満足しています。今後のリードアジアにも期待しています。



萩原直美 創価大学 文学部 人間学科 2年

リードアジアでここまで成長できるとは思ってなくて、ここまでみんなのことが大好きになると思っていませんでした。そしてここまで優秀で面白いメンバーと知り合えると思っていませんでした。中国人学生も、日本人学生もみなすごい経験の持ち主でポテンシャルもものすごく高く毎日感動の連続でした。はじめは栗田さんが言っていた化学反応やシナジーの意味がわかりませんでした。自分が自分を見ても周りを見ても確実に成長していて、自分だけでは得られない学びがあったと思います。またディスカッションの進め方や、定義付け、ターゲットを絞ること、根拠に基づいた提案など論理的思考の基礎を身につけられたのは良かったです。リードアジアで気づいたことを毎日の行動に移し、日中友好、アジアの友好のためにさらに精進していきます。



秋葉大暉 早稲田大学 法学部 4年

まずは実行委員のみなさんお疲れ様でした。私自身は元々中国在住・留学経験もありその中でこのプログラムを中国文化理解の最終形として臨みました。しかし当プログラムでは中国に対する理解だけでなく自分のチームワークの際の力不足であったり、自信のあったものが他人の視点から見ると足りないこともあるなど多くのことを学びました。来年は実行委員も考えておりより良いプログラムにしたいと思っています。



余嶺析 一橋大学 社会学部 2年

本当に感動的な8泊9日でした。最初は、自分がそこまでみんなと友達になって、成長できると予想してなかったのですが、本当に一生の思い出でした。企業さんのお話を伺ったりみんなと一緒に課題を取り組んだりして、企業への関心が高まり、自分のグループディスカッションの問題点を発見しました。平成最後の夏は平成最高の夏になりました。



馬煜茗 千葉大学 工学部 工学科 3年

多彩な業界の企業を知り、文理・国籍・性別と関係なしに社会で活躍している方々と会えて、視野がすごく広がりました。「考えることより先に行動をすること」というこのプロジェクトから得られた一番重要な一言を今後生かしていきます。



郭祉辰 一橋大学経済学部 2年

本当にこのプログラムに参加させていただき、ありがとうございます。本当に皆さんと友達になり、いろいろ今まで聞けなかったことを聞いて、より一層日本が好きになりました。企業訪問の時も、いろいろ貴重な話をいただき、勉強になりました。また短時間でグループごとにディスカッションして発表することで結構プレッシャーを感じたけど、成長になったと思います。



周心奕 東京大学 経済学研究科 現代経済コース M1

色々な企業を訪問して、グループディスカッションもして、楽しかったです。深夜までのグループワークとかで大変だったこともありましたが、その分得られた貴重な思い出もあり、良い経験となっています。一つだけちょっと残念だったのは、もっと早くからリードアジアに参加したらよかったということです。もし機会があれば、実行委員とかにもかからせていただけたらと思います。最後に、実行委員の方々、素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。



劉冰森 東京大学 教養学部 文科二類 1年

8泊9日お疲れ様です。最初の基本的なビジネスマナーから提案まで色々学べ、勉強になりました。また、周りの日本人、中国人問わずから刺激を受けて、自己成長にも繋がりました。



汪浩岩 早稲田大学 政治経済学部 経済学科 3年

振り返ってみると本当に自分の期待を上回るプログラムとなりました。日本の企業に関して理解を深め、仕事に対する印象も変わりました。何よりも参加者、実行委員の皆さまと交流する中、文化や言葉の差が相互理解の妨げにならないことを体感できました。多数のディスカッションで、自分が成長することがはっきり感じます。だんだんうまく行って行くグループワークが実に楽しかったです。今後もこのリードアジアで学んだことを生かし頑張っていきたいと思っています。



劉宇婷 長春理工大学 日本語学科 岡山大学交換留学中 3年

平成最後の夏のリードアジアの皆さん、本当にお疲れ様でした！リードアジアに応募して、参加して、よかったです。皆さんと出会って、よかったです。この九日間、足は確かに疲れましたが、心は毎日大満足です。毎日枕に着いたら、すぐ寝てしまいました。リードアジアに参加する前に、グループディスカッション能力は本当に下手でしたが、企業訪問の毎日、違う考え方を持っている、優秀な皆さんとブレインストーミングしたり、日本語で議論したり、ディスカッション能力も、日本語能力も、多かれ少なかれ成長できました。



程文莉 福州大学 日本語学科 長崎外国語大学交換留学中 3年

日本外務省や各業界の大手企業、いずれも自分の普段の生活からかけ離れた存在でした。訪問する前、そんな難しい話私にはわかるのかなという不安がありまして、実際に聞いて見ると、難しいこともあれば、極身近で、共感できる話もありました。特に、日中関係や日中貿易の話に大変興味を持っていますから、自分の考えと違った部分をちゃんと聞くと、勉強になりました！自分の視野も少し広がった気がしました！歴史勉強会や本音大会のお陰で、貴重な素直で日本人学生と交流するチャンスを頂きました！一回じゃ足りないくらい面白かったです！



羅燁 上海外国語大学 日本文化経済学院 1年

まだ1年生だけど、分からないことは山ほどあるけど、選んでくれて本当にありがとうございました。期待に答えてないと思うけど、もともと皆と交流したほうが良いと後悔しているけど、でもこれだけでも、もう十分勉強になりました。文化交流と想っている人は皆、人の意見を受け入れる。色々な問題について相談できて楽しかった。実行委員達今までやってきたことは意義ありと思う！いい活動でした！今年の夏、リードアジアに参加できて、本当によかった！



馬力 早稲田大学 政治経済学部 経済学科 2年

正直言って、自分は生活ではあまり人と自分から話さない人なのですが、この「リードアジア」の場では自分をすごくブツシュして、頑張って話題を作ったり、たくさんの人とお話できて本当に良かったと思います。実行委員たちが散々「自分たちのミス」とか言っていますが、実は本当に大変だったと思います。毎日夜遅くまで会議したり、本当に辛かったと思います。しかしそれでもみんなも満喫していて、最高の思い出も作ることができたと思います。企業訪問でのグループディスカッションとかは、今まで全然考えてなかったことも議論して、お互いの意見を交換したり、本当に自分にとっても勉強になりました。本当に参加してよかったと思います。



陳妍宇 電子科技大学 外国語学部 千葉大学交換留学中 3年

私は日本で一年間交換留学しましたこの一年間色々な人と出会って沢山のことを勉強でき、そして最後、中国側留学としてリードアジアに参加でき、リードアジアで留学生活を終わらせて本当に最高の夏でした！みんなの凄い所をいっぱい見て自分もより頑張ろうと思うようになりました！自分を通して誰かにありのままの中国を了解させ、本当に嬉しいです！これからも日本で経験したことをまとめて、ありのままの日本を中国人に伝えたいと思っています。



甄林傑 中原工学院 外国語学院 3年

皆さんと出会って本当にありがたいです！幸せで、楽しかったです！日本人の学生がいろいろと助けてくれて本当にありがたいです！実行委員さんにいろいろ迷惑をかけてしまって、本当にすみませんでした！みんなのおかげで、あまり自信がない私がすごく成長してきた！これからももっともっと勉強したく、頑張りたいと思います!!!平成最後の夏の思い出一緒に作ってくれて、本当にありがとうございました！最高の思い出ができて、一生忘れないです！考え方も、やり方も、皆さんと交流し、大変勉強になりました!!大変お世話になりました!!ありがとうございました!お疲れ様でした!



王丹 上海财经大学 外国語学院 1年

プログラムに参加する前はずっと期待して、緊張した。最初はディスカッションの時、みんなの話がよく聞き取れなかった。その時は本当に刺激を受けた。この一週間どうしようか困った。しかし、みんなは本当に優しいし、ずっと説明してくれて、励んでくれて、だんだん積極的に参加できるようになった。ありがとうございました。また、この一週間は毎日充実して、楽しかった。みんなと出会ったのは本当によかった!Rlead Aisa 最高。



李季昕 上海财经大学 商学院 3年

こんなに素敵なプログラムだと思わなかった。色々な人と出会って色々な知識も得られました。色々な刺激を受けていて、成長も感動も 楽しむことも悔しいこともたくさんあった。参加者のみんな優秀で優しい人ばかりなんで、実行委員のみんなもできる人しかいないし、本当に素敵な9日間過ごしました。これからまだまだ頑張りますので、みんなとまたどこかで会いましょう。感謝の心を持つこれを申し上げたい。Rlead Asia 最高!



霍楊 山東大学 外国語学院 M1

いつの間にかリードアジアはハードアジアになっていった。みんなハードアジアとは言っていますが、きっとすごく楽しんでいると思います。今回のプログラムに参加し、日本の企業文化に触れることだけでなく、合宿の形で、いろんなバックグラウンドの人と交流し、一緒に生活したり、一緒に最終発表のために徹夜したり、打ち上げ会で酔ったりして、一生忘れられない思い出をいっぱい作りました。これからの人生にもずっと付き合っていきたい友達も出来て、リードアジアに参加できて本当に良かったです!



肖俊彬 中山大学 地理科学・計画学院 3年

今まで参加した日中交流活動の中で一番だと言っても過言ではないと思っています。8泊9日の企業訪問×日中交流を経験して、大手企業にも中小企業にも訪問して、いろいろなテーマについてディスカッションも発表もして、日中歴史勉強会や日本本音大会で相手国についての誤解を解いて、毎日も頭も大変疲れましたが、今振り返ってみたら本当にいろいろ勉強して、充実でした。平成最後の夏にこの活動に参加して友達と会えて本当に良かったと思います。またいつかどこかで会いましょう!



田雨晴 天津外国語大学 日本語学院 2年

短い時間だけど、充実したスケジュールだった。実行委員の皆様本当にお疲れ様。日本でいろいろめっちゃいい思い出が残って、いろいろ勉強できてとても素晴らしい。リードアジアは企業訪問のいい機会を提供して心からありがたい。皆と一緒に遅くまで起きて、おしゃべりして、だんだん仲良くなって、一生の友達も作った。これからもどこかできっと会えると信じている。最高の思い出！



崔所為 北京理工大学 外国語学院 4年

平成最後の夏で、中国人と日本人の皆さんに出会えてくれて、一緒に暮らして見学する貴重な機会をもらって、とても嬉しいです。残念なことや悔しいこともあっても、リードアジアの皆さんと中国と日本のことについてコミュニケーションして、いろいろな勉強になって、自分自身に対しての考えも深くなって、成長してきたと思います。



謝陽焜 上海海事大学 外国語学院 2年

皆さんは本当に優しい人と思う！自信がない時、いつも「よくできましたよ」「来期の日本語は本当に上手だよ」と言ってくれて本当に感謝の気持ちしかない。実行委員の皆さんもいい人だし、とても頼れる。みんながいれば、何も心配する必要がない。初めて日本へ来て、皆さんと出会って本当に良かった！色々シヨツクを受け、色々成長して本当にとても貴重な体験！最終発表会の準備をするために、一日二時間しか寝ていない時もあるけど、グループメンバーと一緒に自分のアイデアをシェアして、とても楽しかったと思う。平成最後の夏で、このプログラムを参加できて良かった！



黄麗薇 天津外国語大学 ビジネス日本語学部 2年

とっても面白かったです。みんなとたくさん話しかけてきて、議論し合って、結論に届くことがとても面白くて、いい勉強になりました。みんなとても頭が良くて、ディスカッションする時、積極的に取り込むことが一番印象深かった。ビジネスについての日本語がとても難しくてなかなか言葉にならないことに残念だったけど、これからはちゃんと話せるように頑張りたい。



李安娜 江西師範大学 外国語学院 3年

別れる場面が苦手で閉会式の時はちょっと逃げたい。いつも照れてしまい、恥ずかしくて好きな人にちゃんと言いたいことを言うことのできない自分の性格に苦しんでいる。楽しんで来て楽しんで帰りたいと思っているから、湿っぽくなりたくない。この9日間は本当に楽しくていろいろな勉強になった。実行委員たちに迷惑をかけて申し訳ないと思うけど。いろいろな人に会うことができて嬉しい。ディスカッションの時に、皆の意見がぶつかり合い、その様々な発想から習うことも多くあり、皆に感心している。参加できて良かった。



陳思旻 青島理工大学 外国語学院 4年

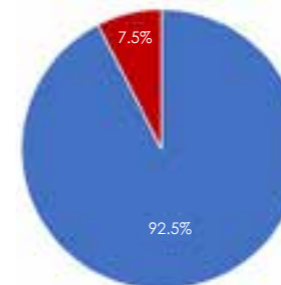
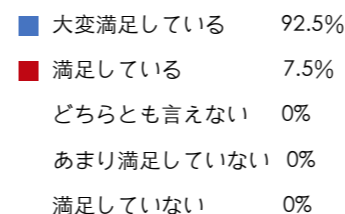
最初は心細く不安だったりすることがあるが、実行委員のみなさんも参加者のみなさんも本当に優しくすぐ仲良くなってくれてありがたいと思う。そして、今までの人生に後悔したことも感じた。これからはもっと勇気を出し、開いた心で新たな人、世界と接するようになるように頑張りたいと思う。

3-2. 参加者アンケート結果

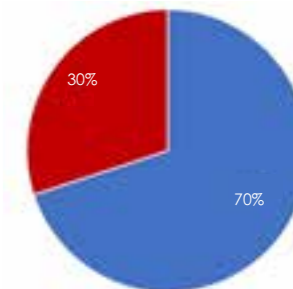
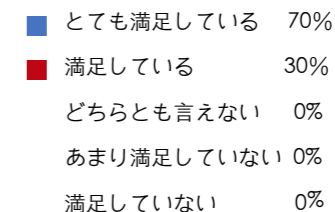
1. 応募倍率 6.7 倍

2. 満足度

2-1 全体の満足度:

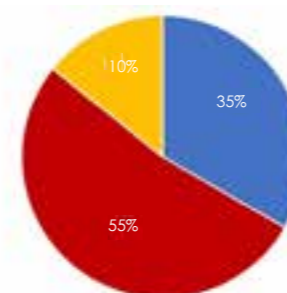
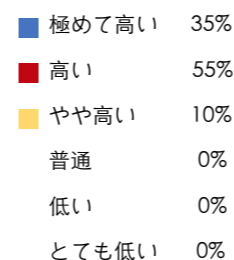


2-2 企業訪問満足度:

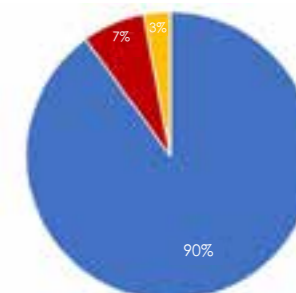
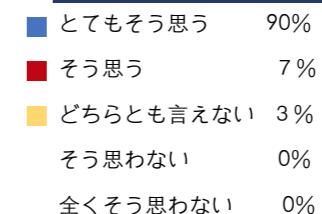


3. 参加を終えて

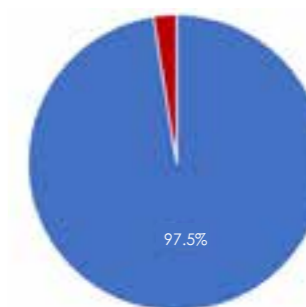
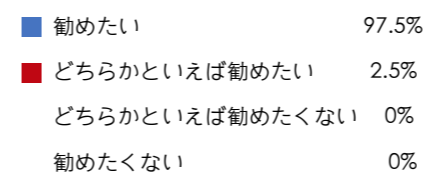
3-1 相手国への好感度:



3-2 今後も日中交流に何らかの形で関わりたいと思うか:



4. 来年もリードアジアを友人に勧めたいですか?



4. 協力企業、機関一覧

<p>株式会社 JTB グローバルマーケティング & トラベル</p> <p>株式会社 JTB グローバルマーケティング & トラベルは、日本への外国人誘致を目的に 105 年前に創立された JTB 元来のミッションを受け継ぎ、訪日旅行（インバウンド）専門の旅行会社として、世界各国からお客様をお迎えしています。</p>	<p>全日本空輸株式会社（ANA） </p> <p>現在国際線・国内線とともに日本最大規模を誇る ANA ホールディング株式会社は 2017 年まで、5 年連続で、SKYTRAX の「5 スターエアライン」（日本では唯一、世界でも 7 社のみ）に認定され、今後とも安心と信頼を基礎に世界をつなぐ心の翼で、夢にあふれる未来に貢献します。</p>
<p>株式会社ホトロン </p> <p>ホトロングループは、「感謝、礼節、反省」を社訓に掲げ、「Speed&Strategy」を合言葉に健全な企業活動を通じて社会貢献することを経営理念とし、積極的な事業展開をしております。またエレクトロニクス技術を通じて豊かでより安心な暮らしの実現を目指し、地球環境・世界及び地域社会との調和に配慮し、効率と安らぎを共創する企業として社会貢献を果たします。</p>	<p>日本電気株式会社 </p> <p>NEC は、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ類ないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、卓越した技術と様々な知見やアイデアを融合することで、世界の国々や地域の人々と協奏しながら、明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。</p>
<p>株式会社三菱 UFJ 銀行</p> <p>私たちは、中長期的にめざす姿として「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」を掲げています。グローバルに変化する多様なニーズに対して、グループ全員の力で、世界水準のトップクオリティを追求していくこと。お客様の資産を守り、日本社会と世界経済の健全な成長を支える、最も信頼される頑健な存在であり続けること。多様化・ポータリティ化する社会で、変化へ積極的に対応し、日本はもとより、アジア、そして世界においても選ばれる存在となること、という意味が込められ、全ての活動の指針となっています。</p>	<p>日本放送協会 </p> <p>日本放送協会（NHK）は、みなさんからの受信料で成り立つ唯一の公共放送です。放送の自主・自律を貫き、放送を通じて社会の健全な発展と視聴者のみなさんの生活や文化の向上に寄与することが役割です。放送と通信の融合が進み、私たちが情報を得る手段が飛躍的に広がる中で、信頼できる確かな情報・コンテンツを見られる『公共の広場』の役割を目指しています。</p>
<p>外務省</p> <p>外務省は、国際社会の中で日本の安全と繁栄を確保し、国民の生命と財産を守る仕事をしています。中でも文化交流事業としては、各国・地域政府関係者、有識者、文化人等との交流、留学生交流や青年交流、スポーツ交流などの分野において、多くの取組みを行っており、国境や文化の垣根を越えた人と人との触れ合いを促進しています。</p>	<p>藤田観光株式会社</p> <p>私たちは創業より、事業を通じ社会に貢献し続ける企業を目指してまいりました。これからも常にお客様のニーズを捉え、「いつも、ありがとうのいちばん近くに」いられるよう、日々愚直に挑戦し続けることが極めて重要だと考えております。2020 年に予定されている東京オリンピック・パラリンピック、そして観光立国に向けた各政策を機会として、観光立国のリーディングカンパニーを目指して、チーム藤田一丸となって新たなステージに向かって挑戦してまいります。</p>

5. 主催団体紹介

主催団体紹介



日中学生交流連盟 (Japan China Student Frontier Group)

日中学生交流連盟（JCSFG）は、2012 年 10 月に設立されました。2012 年は日本と中国にとって国交正常化 40 周年という節目の年を迎えた一方、尖閣諸島の問題を発端にかつてないほど関係が悪化した年でもあり、現在加盟している団体の中には準備していた活動の内容を変更せざるを得ない団体もありました。そんななか、日本と中国の学生のパイプをより太いものにすべく、日中交流に携わる 5 つの団体が JCSFG を立ち上げました。

2018 年 11 月現在、「AFPLA 東京大学支部」「OVAL JAPAN」「京英会」「京論壇」「紅葉会」「心連心 OB・OG 会」「日中学生会議」「日中学生交流団体 freebird」「日本青少年友の会」「早稲田大学中国語学習会」（50 音順）の 10 団体が加盟しています。各団体の活動は、ディベートやホームステイ、語学交流やビジネスコンテストなど多岐にわたります。JCSFG は、こうした活動をより活性化させていくためのプラットフォームとしての機能を担っています。今後も加盟団体同士で知恵を出し合い、力を合わせ、日中の学生交流の活性化に取り組んでいきます。

顧問／アドバイザー

◆顧問（敬称略）
谷口誠（元国連大使・桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問）
川西重忠（桜美林大学教授・北東アジア総合研究所所長）
楊光俊（桜美林大学孔子学院学院長）
瀬口清之（キャンソングローバル戦略研究所研究主幹）

◆アドバイザー
森谷幸平（株式会社 WizWe 代表取締役社長）
福住俊男（グローバルマネジメント研究所代表取締役社長）



独立行政法人国際交流基金 日中交流センター (The Japan Foundation China Center)

独立行政法人国際交流基金は日本の国際文化交流事業を総合的に実施する専門機関です。1972 年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003 年 10 月に独立行政法人となりました。現在、本部と京都支部、2 つの付属機関（日本語国際センター、関西国際センター）、及び海外 24 か国に開設された 25 の海外拠点を中心に、外部と連携しつつ、文化芸術交流、海外における日本語教育、日本研究・知的交流を 3 つの柱として活動しています。

日中交流センターは、日中間の青少年交流を促進するために、2006 年 4 月に国際交流基金に設立されました。日本と中国の将来を担う若者たちが未来を共に創るため、改めてこの絆を大切に、さらに大きな橋をかけたい…この想いの下、主に 3 つの事業一次世代を担う中国の高校生を約 1 年間日本へ招へいする中国高校生長期招へい事業、日中の交流の担い手間のネットワークをつくり広げていく事業、中国の地方都市を中心に日本文化を伝えるとともに交流を行う「ふれあいの場」の設置・運営支援を行う事業一を推進しています。

加盟団体紹介



・ AFPLA

AFPLA (Asian Future Political Leaders Association) は、政治学に関心のある東アジアの学生が一同に会する国際会議を一年に一度主催しています。東京大学、北京大学、ソウル大学校、復旦大学、台湾国立大学の学生が、一緒に学び考え、濃い議論を経て共同発表を行うことで、学問的な理解を深め、生涯の友を得ることを目指しています。2018年は韓国で開催し、「主要な対外リスクとしての安全保障問題」というテーマについて議論しました。



・ OVAL JAPAN

OVAL (Our Vision for Asian Leadership) は、「東アジア発のグローバルリーダーの輩出」をミッションに日中韓の三か国による、英語を用いた国際ビジネスコンテストを運営しています。実際に、日本・中国・韓国の学生が1人ずつ、3人1組となって計30チームでビジネスプランを競い合います。三か国それぞれに支部を持ち、毎年日中韓いずれかの国でコンテストを行うのが特徴で、2018年の夏には東京で開催しました。

・ 京英会



京英会は、「日中の草の根交流を学生間から地域・社会全体に広げていく」ことを目的に、日中学生間の交流活動を企画・運営しています。毎年夏には、日中の学生がともに、東京・鯖江(福井県)・北京に滞在し、ディスカッション・街頭インタビュー・地方見学・日中文化体験・ホームステイなどを行います。2018年は「共同生活」をテーマとし、お互いの国籍を超えた相互理解を目指し、日本語・中国語で議論を行いました。



・ 京論壇

京論壇は、東京大学と北京大学による日中学生討論団体であり、両大学の学生が、互いの国に1週間ずつ滞在し、日中間に横たわる様々な問題について英語で本音をぶつけ合い徹底的に議論します。2018年度は「多文化共生」「サイバースペースへの統制」「競争と正義」の3つの分科会としました。また、その成果は、報告会やシンポジウムの開催、出版活動、学校訪問などを通じて、積極的に社会に向けて発信しています。



・ 日中学生会議

日中学生会議は毎年8月の約2週間半、日中両国の学生が一堂に会し、「対話」を基本に討論や共同生活を通じて、日中両国の学生の相互理解を深めています。学生発の団体として、日中友好の実現に向けて活動しています。また、2018年で32周年を迎え、長い歴史の中で多くの優秀なOBOGを輩出しています。開催地は日本と中国の隔年であり、2018年は北京・西安・南京・上海の4都市を訪れました。



・ 日中学生交流団体 freebird

freebirdは、『日中の学生の相互理解の場を創出すること』を目的とし、2005年に設立されました。現在は、北京・上海・関東・関西に支部があり、支部ごとに様々なイベント、勉強会、交流会を行っています。2018年夏には、CHINATRIP2018という日中各地から集結した大学生による10日間の合宿イベントを開催しました。



・ 早稲田大学中国語学習会

早稲田大学中国語学習会は、通称「チャイ研」と呼ばれる、1972年から続く元祖中国語学習サークルです。初心者からネイティブまで参加し、まったく中国語を勉強したり、留学生と交流したりしています。2018年は北京と山梨で開催しました。



・ 心连心 OB・OG 会

「心连心」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現するため、日中両政府間の合意に基づく初めての長期招へい事業として2006年度より開始され、国際交流基金が主催しています。招へい生たちは、9月初旬から翌年7月下旬まで、日本各地に分かれ、ホームステイ先や学生寮に滞在しながら、授業・部活・学校行事など現地の高校生たちと同様の生活を送ります。“心と心をつなぐ”をモットーに、「心连心」というプログラム名称を用いています。



・ 日本青少年中国語友の会

日本青少年中国語友の会は、桜美林大学孔子学院の附属団体です。中国語を学ぶ青少年(15歳から35歳)が主体となり、桜美林大学孔子学院で開催されるイベントなどに協力しつつ、日中交流・日中友好に貢献しています。



・ 紅葉会

早稲田大学紅葉会は早稲田大学政治経済学部で発足された、中国人留学生を主体とする団体です。活動内容として、様々なイベントを企画することによって留学生と日本人学生が接触する機会を増やしたり、中国人留学生や他の学生たちの大学生活全般をサポートしたりするという理念を掲げています。

告知協賛

・ ガクセイ基地

「学生の間で一生涯続けられるような“好き”を見つけ、将来の仕事にもつなげてほしい」「なんとなく将来を選択する学生をゼロにしたい」ガクセイ基地では、将来を決断するきっかけを与えるような、企業や学生団体の取材記事といった多様な情報を提供し、学生向け知識の宝庫を目指しています。



・ ジョブウェブ

学生、社会人、人事担当者、そして、企業のそれぞれが、自分たちのビジョンを持ち、その実現のために努力をしています。しかし、就職や採用という場でのそのビジョンを表現し、理解し、共有することは容易なことではありません。こうした個人と企業との間に立ち、ともに考え、解決策を提供しています。



・ t-news

大学生にとって重要な情報(アルバイト、就活、留学、資格等)を提供する総合情報メディアです。会員には編集部が厳選した在宅や採点バイト・試験監督など、大学生にとって魅力的な案件をメールマガジンにてお届けしています。



クラウドファンディング協賛

秋森久美子様、五十嵐貞一様、イノウエヨシオ様、岡崎和彦様、栗田典子様、古作みどり様、椎名清様、寺田裕剛様、中村文宣様(五十音順)

6. 学生実行委員紹介

栗田寛樹 実行委員長
一橋大学経済学部3年

大学1年生で縁あってリードアジアプログラムに参加して以来、昨年は実行委員として、今年は実行委員長として、気づけば3年にわたってこのプログラムに関わらせて頂きました。この出会いに本当に、心の底から感謝しています。私にとってこのプログラムの最大の魅力は、企業訪問、文化交流、勉強会、その他全ての場所で学生が自分をむき出しにして考えをぶつけ合える点でした。2年前にこの素敵なプログラムを通じてより多くの人と学びや感動をもっともっと共有したいと感じたことを覚えています。

そして実行委員長という責任ある立場で迎えたリードアジア2018は、最高に頼りがいのある優しい実行委員仲間にも、実行委員の私達を優しく支えてくれる参加学生達にも恵まれ、胸を張ってやりきったと言えるプログラムと一緒に創り上げることができたと信じています。これからも、この思い出、この縁、ここでの学びを大事にしてもらえたら嬉しい限りです。ありがとうございました。

古作優美 副実行委員長・会計
お茶の水女子大学文教育学部3年

私がこれまで日中交流を続けてきたことは、まさに“縁”がもたらしてくれたものだと言えます。高校生の時に先生に「中国行ってみたい？」の一言をきっかけに、日中交流センターのプログラムに参加させていただき、そこから紹介していただいたご縁で、去年、リードアジアに参加しました。そこでは、このプログラムを学生が1から作っているという事実が驚き、そこでまた「実行委員をやってみない？」の一言で今年は実行委員として運営に携わらせていただきました。声をかけていただいたことで始まった日中交流との“縁”は、結果、私に最高の仲間をもたらしてくれました。この縁に最大の感謝をさせていただくとともに、リードアジアという最高の仲間と繋がりを生んでくれたプログラムに魅了された者として、これからも私のできることを全力でしていきたいと思えます。

中塚咲希 副実行委員長・日本側広報
法政大学法学部3年

「リードアジアの先輩方は経験・気遣い・知識・表現力など、どこを見ても完璧だった。毎日そんな参加者のみんなについていく事に必死だった。」2年前の夏、大学1年生の参加者だった私はそんな感想を持っていました。プログラム内容だけでなく、当時の実行委員と参加者の皆さんからも多くの刺激を受けたことを覚えています。だからこそ、参加後もリードアジアは私にとって大きな存在でした。偶然声をかけて頂いて今年の実行委員を務めることになりました。正直苦労したことも沢山ありました。でも、実行委員のメンバーと参加者の皆様の温かさと優しさが私を大きく成長させてくれました。実行委員としてのプログラムを終えた今でも、リードアジアを通じて知り合った方に対する尊敬の想いは変わりません。素敵な出会いと経験に心から感謝しています。ありがとうございました。

劉越 会計
上智大学経済学部経済学科4年

就職活動をやりながら、実行委員の仕事をして頂きました。約1年の活動期間中、やむを得ず実行委員会議を休んだり、自分の担当業務を他人に回したり、他のメンバー達に多大な迷惑をお掛けしました。しかし、皆さんから文句を言われたことが一回も無かったです。また、プログラム期間中も、運営側がいろんなミスをしたにも関わらず、参加者達が暖かい言葉で励ましてくれたり、自分の体調を心配したり、熱い思い出がたくさんありました。リードアジア2018の成功、ひとえに参加者との実行委員のみなさんのご協力があったからこそ出来たのだと確信しています。みなさんに感謝の気持ちがいっぱいです。有難うございました！

寺田鈴音子 日本側参加者対応
高知県立大学文化学部文化学科3年

昨年度このリードアジアに参加した際、自らの想像を超える様々な個性を持った日中両国の学生たちと出会いました。そこで、日中とアジアの未来への希望を分かち合える仲間を作れたことにとっても感動し、また彼らから大いに刺激を受けたことから、この素晴らしいプログラムに少しでも恩返しができるかと思ひ、今年度は実行委員としてリードアジアに戻ってまいりました。

私は地方在住ということもあり、今年度のリードアジアが出来上がっていく過程を間近では見られなかったため、プログラム当日までハラハラドキドキでしたが、いざ始めてみると、参加者たちが充実した笑顔が浮かべながら切磋琢磨する様子を目にすることができて、昨年度の自分たちを懐かしく思うと同時に、今年度の参加者のみなが来年どのようなリードアジアを作り上げていくのかを楽しみに思いました。

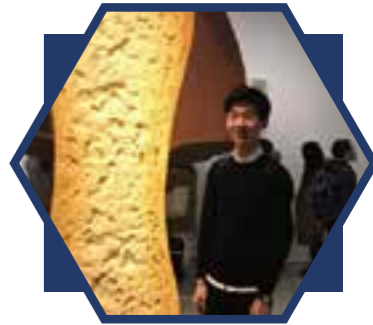
今後もリードアジアを足がかりに、両国の学生たちが、日中とアジアの未来を牽引するという覚悟と熱意を胸に、世界に羽ばたいていくことを願っています。

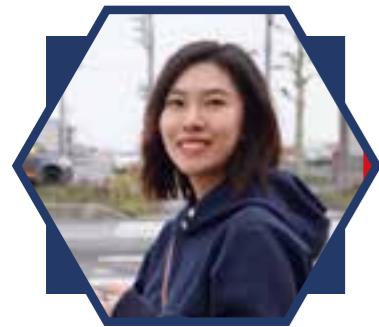
ターン永里名ローリス 日本側参加者対応
共立女子大学建築デザイン学科建築コース2年

1年生の頃にリードアジアプログラムに参加させていただき、私は自分を変えることができました。表現力、行動力、コミュニケーション能力、知識、発想力、私にはないものを持つ先輩方と共に過ごしディスカッションや、国を超えて文化交流をすることにより今までにない世界を見ることができました。今までの私は発言することを拒み、表現が苦手で実行委員を自分からやりたいという人ではありませんでした。しかし、今では自ら発言し、他の人と意見を共有しコミュニケーションを取ることができるようになりました。これはリードアジアに参加させていただき、実行委員をやらせていただき、心から尊敬できるメンバーとの出会いと経験をさせていただいたからだと思います。リードアジアは私に大きな影響を与え、人生の中で決して忘れない経験となり心から成長できました。ありがとうございました。

温皓恒 中国側参加者対応
早稲田大学政治経済学部経済学科4年

昨年度リードアジアに参加して、企業を訪問したことと優秀な学生たちと交流したことを通じて、いい刺激を受け、自分のキャリアと日中将来について考えさせられました。ぜひより多くの学生にも、このプログラムを知ってもらいたいと思ひ、今年度は実行委員になりました。就活との両立が厳しい時もありましたが、実行委員メンバー全員で協力しながら乗り越えて、最後は非常に貴重な思い出を皆で作ることができました。そして何より、今回のプログラムに協力してくださった方々と企業様に感謝の気持ちを申し上げます。また、私は今年度の中国側参加者対応を担当しました。中国と日本の若者の交流意欲の高さにも大変驚きました。今後もしばしば日中の架け橋として、両国の交流に自分の力を貢献したいと思います。





陳微 中国側参加者対応
千葉大学園芸学部園芸学科 4年

大学3年時にちょうど進路を考えはじめた頃で、「何かしなければならぬ」という受動的な気持ちを抱え、去年のリードアジアプログラムに出会いました。本来なら、日本にいる長期留学生として、中国本土学生と日本人学生のコミュニケーションが円滑に進むように働きかけるはずでしたが、様々なバックグラウンドを持っている日中両国の学生たちとの本音のぶつけ合いに夢中でした。参加者としてはかなり満足できましたが、もっと日中学生の架け橋になりたいと初心に立ち返り、今年のリードアジアの実行委員として携わらせてもらいました。

プログラムの運営側になって初めてその苦勞がわかりました。コンセプトの確定、資金集め、渉外、面接日程調整と合格基準、最終発表テーマの決定、どれも労力と時間がかかるタスクで、実行委員の皆で力を尽くしてクリアしました。それでも行き詰まったり、予想通りにいかなかったり、ミスをしたり、頑張った成果が認められなかったりします。自分の能力、さらにプログラムの意義まで疑問を持ち、何度も自分に問いかけました。悩んでいる時、ふと思い出されたのが、リードアジアをきっかけに中国へ留学すると決意した今年の実行委員のことです。それでこのプログラムを通して、1つ学んだことがあります。いつか自分がやっていることはどういう意味を持つか、将来はどのように役立つか、すぐに答えを出さなくていいです。今まで知らなかったことを知り、わからなかったことを理解し、やらなかったことにチャレンジする、そのこと自体が楽しいから参加しました。このような素朴な感覚が大切だと思います。そしていつか振り返った時に、今回感じた様々な「この手に残る生の感覚」が思いも寄らない形でつながって、未来への飛び石となっていたことに気づくのかもかもしれません。プログラムの準備期間も本番の時もそれを意識しながら動いてみました。この一言、この一つの動作で誰かの考えが変わり、人生が方向転換するかもしれません。一周回って、今年のリードアジアのコンセプト「心をつなぐ、日中をつなぐ、未来へつなぐ」に戻りますが、この経験は単なる楽しい思い出ではなく、次への道標となるものと信じています。

金本嘉裕 中国側広報
早稲田大学商学部 3年



今回のリードアジア2018は北京大学留学から帰国した直後に実行委員としてお手伝いさせて頂きました。そんな私が北京大学に留学する契機となったのが、まさに二年前のリードアジア2016への参加でした。1年生の時に素敵な同期や先輩との交流を通し沢山の刺激を受けて中国についてより深く理解したいと強く思うようになり、それが中国留学をするという目標に繋がりました。そして留学を終え目標を達成した自分に次は何が出来るのかを考えた時に思いついたのが今度は実行委員として日中交流の場を創る立場に回ることです。このリードアジアというプログラムは人を変える力があると信じ、少しでも多くの人に日中交流を通して良い影響を与えたいという信念で8泊9日間を作り上げました。その結果、実行委員メンバーの仲間にも参加者にも恵まれ、本当によいプログラムになったと思います。このプログラムが次の誰かの成長の原点となれば幸いです。協力団体・企業の皆様、参加者の皆さん、そして実行委員のメンバーのみならず本当にありがとうございました。

余梨彩 中国側広報
昭和女子大学人間文化学部英語コミュニケーション学科 4年



昨年の参加者としてリードアジアに関わったことを契機に、日中交流に自分が出れることを模索した結果、今年の実行委員に立候補させて頂き、1年間活動を続けてきました。第6回目の開催となるリードアジア2018は、私たち実行委員会だけではなく、様々な方々のご支援や協力無しでは成り立たないことを痛感しながら、準備を進めてきました。就活もしながら大変な時期もありましたが、それ以上に得るものも多くありました。私にとって、リードアジアは日中交流に留まらず、仲間・協力・感謝の大切さと素晴らしさを感じさせてくれるプログラムでもありました。リードアジアに関わった日々全てが人生において学び深い小節であるゆえ、今後の糧ともなるよう目標と努力を忘れずに活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

7. リードアジア2019へのご協力・ご協賛のお願い

日中学生交流連盟では、リードアジア2019プログラム（2019年8月17日～25日に実施予定）にご協力いただける企業を募集しております。第7回目のプログラムとなるリードアジア2019では、「30年後に続く、9日間の出会い」をコンセプトに、更なるプログラムを計画しております。

ご協力形態の例:

- ①学生の受け入れ（企業訪問・ご講演）
- ②協賛金の提供
- ③参加学生募集の際の広報活動

企業訪問については、オフィスや施設の見学、企業や業界についてのご講演、学生の議論活動のテーマの提供といった形態でのご協力を計画させて頂いております。
ご検討いただける企業様は下記連絡先までご連絡下さい。

ご協賛のお願い

日中学生交流連盟、及び連盟加盟団体では協賛金をお受けしております。（協賛金の用途はご指定いただくことが可能です）
お受けした協賛金は、連盟が責任を持って管理し、用途をご報告させていただきます。
日中学生交流連盟及び加盟団体一同、日中関係の一層の発展に向けて励んでまいりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、協賛して頂いた場合には下記の特典を進呈いたします。

- ①年次報告書の送付
- ②連盟、及び加盟団体の各媒体にて協力形態を明記
- ③連盟、及び加盟団体にて広告の掲載
- ※ 詳しくは日中学生交流連盟までお問い合わせください。




日中学生交流連盟
Japan China Student Frontier Group

E-mail : jcsf.frontier@gmail.com
rleadasia2019@gmail.com
Facebook : <https://www.facebook.com/jcsf.frontier>

国際交流基金日中交流センター
The Japan Foundation China Center

Tel : 03-5369-6074
HP : <https://www.chinacenter.jp/>